代表質問から

財政

問　平成十九年度当初予算は、どのような考え方で編成したのか。

答　編成にあたっては、
①当事者とともに考え実践すること
②縦割りの弊害をなくし、部局横断的・総合的な施策を展開すること
③問題意識を明確にし、実行、実現すること
④地域資源を徹底活用し、地域社会の質的向上を目指すこと
⑤県民の多様な活力を発揮できる環境づくりを進めること
の五つの考え方を基本に編成した。

現行の国の制度や財政状況ではできる限りのことを尽くした予算案と考えている。

私学助成

問　私学助成を全国平均並みにすべきだと思うがどうか。

答　平成十九年度の国の標準単価の増額分を加算し、高校では一億六千九百万円を定額加算したこと、幼稚園の「親と子の育ちの場推進経費」では五千二百万円を増額するなど前年度に比べ約二億円増の三百二十九億二千九百万円余りを計上した。

大変厳しい中で精一杯の努力をした。

福祉

問　乳幼児医療費助成事業については、平成十八年九月定例会において請願が採択されたが、それを受け県はどう対応したのか。

答　平成十八年九月の県議会において
①対象年齢を入院時と同様、通院時においてもできるだけ、就学前に近づけること
②県または国の制度として創設し、統一した制度の下に経済的支援ができるようにすること
の二つの請願が全会一致で採択された。

これを受け県においては、平成十九年十月から通院の対象年齢を一歳引き上げ、ゼロ歳から四歳未満までとした。

また、国に対しても乳幼児医療費助成制度の創設を要望している。

問　障害者条例関係の予算の内容はどのようなものか。

答　平成十九年度は、
①個別の事案解決のための「地域相談員」や「広域専門指導員」の活動経費、「障害のある人の相談に関する調整委員会」の運営経費
②差別の事案の背景にある制度や習慣等について協議するための「推進会議」の運営経費
③パンフレットの作成など、県民等への条例の普及・啓発経費
などの予算となっている。

問　障害を持つ方の差別相談については人員や権能の強化が必要だがどのようにフォローしていくのか。

答　障害のある方が、差別を受けたと思われる事案については「地域相談員」や「広域専門指導員」が解決を図ることを基本としている。

障害者条例の施行後は、身近な地域相談員や広域専門指導員に対し、多様な相談が寄せられることが考えられる。

この中にはこの条例の対象とならない方からの相談も予想されるが、そのような相談については、中核地域生活支援センターや地域の様々な関係機関と十分な連携を図っていきたい。

医療

問　県内の周産期母子医療センターの整備状況と今後の見通しはどうか。

答　現在、地域の周産期母子医療センターとして、旭中央病院、社会保険船橋中央病院、君津中央病院の三病院を認定している。

さらに東邦大学医療センター佐倉病院が、現在建設中の新病棟に地域周産期母子医療センターの整備を進めている。

また、総合周産期母子医療センターとしては、亀田総合病院を平成十七年四月に指定しているが、さらに東京女子医科大学八千代医療センターを指定するため協議を進めている。

問　ナースセンター事業の実績と今後の取り組みはどうか。

答　県では、看護師確保対策の一環として、再就業等を促進するためのナースセンター事業を県看護協会に委託し、就業を希望する看護師等の相談・登録事業や再就業等の講習会などを実施している。

平成十七年度の委託事業の結果は、相談件数は八千七百六十五件、登録件数二千二十八件でこのうち再就業者は、八百六十九名と前年より若干増加している。

平成十九年度は、看護師資格を有し、就業していない者を対象に再就業者の確保に努めていく。

水道

問　県内水道経営検討委員会の提言はどのような内容か。

答　検討委員会では平成十七年八月から九回にわたって今後の県内水道のあり方などが検討され、平成十九年二月八日に、県内水道の統合・広域化の基本的な考え方や実現への手順について提言が示された。

統合・広域化の基本的な考え方には、県内の水道の運営基盤を強化し、より高いサービス水準の実現を目的に進めることや、県と市町村の役割の明確化が示されている。

また、統合・広域化の手順としては、短・中・長期の各段階における組織のあり方や財政措置等が示されている。

教育

問　公立学校における民間人校長の登用についてどのように考えているのか。

答　民間人校長の登用については、学校経営に民間の組織マネージメントの手法や柔軟な発想力・企画力等を取り入れることとなり、特色ある学校づくりや学校の活性化につながると認識している。

現在、現職教頭を民間企業に派遣して一年間研修させた後、校長として登用し、民間の手法等を学校経営に取り入れるようにしている。

平成十八年度は企業派遣研修を経験した教頭五名を校長に登用したところであり、さらに五名の現職教頭が企業で研修をしている。

今後の民間人校長の登用に当たっては、具体的な課題について研究しており、導入についてさらに検討を進めていきたい。

平成十八年度　千葉県議会　児童・生徒表彰受賞者

学芸

個人

絵画	田邉　浩輝	市原市立姉崎小学校
絵画・ポスター	山﨑　満	千葉市立若松台小学校
図書館調査学習	澤田　美月	野田市立木間ケ瀬小学校
短歌	堀川　瑞稀	袖ケ浦市立長浦小学校
ポスター・ものづくり（プロペラカー）	成沢　自由	印西市立内野小学校
標語	田中　堯	茂原市立緑ヶ丘小学校
図書館調査学習	小埜　陽平	鎌ヶ谷市立北部小学校
ポスター	積田　真由美	袖ケ浦市立中川小学校
珠算	萩谷　彰乃	旭市立中央小学校
ものづくり（Uターンマシン）	髙橋　菫	千葉市立真砂第三小学校
図画	元吉　杏那	茂原市立南中学校
書道	手槌　夏希	八千代市立阿蘇中学校
図画	髙浦　正樹	市原市立湿津中学校
図画	高浪　涼香	千葉市立稲毛中学校
珠算	柏木　優太	佐倉市立臼井南中学校
ロボット相撲	金子　優希	市原中央高等学校
ロボット相撲	松崎　宗哲	千葉県立茂原樟陽高等学校
音楽※	髙橋　治喜	千葉県立茂原樟陽高等学校
珠算※	岡本　誠司	市川市立塩焼小学校
書道※	高倉　佑一朗	流山市立南流山小学校
	君塚　茜	勝浦市立北中学校

団体

レポート研究（自然環境）	吉田　ケイワン	柏市立酒井根小学校
音楽	佐藤　あゆみ	柏市立酒井根中学校
音楽	梅林　太朗	松戸市立第四中学校
音楽	吉田　裕貴	野田市立第一中学校
音楽	矢後　公誠	柏市立柏第五中学校
プログラミング	鈴木　千加	千葉県立一宮商業高等学校
プログラミング	木村　夕貴	千葉県立館山高等学校
音楽	阿部　薫	習志野市立習志野高等学校
音楽※	五十嵐　未帆	柏市立柏高等学校
音楽※	大胡　龍之介	習志野市立谷津小学校
音楽※	飯田　陽	松戸市立第一中学校
音楽※	桑川　元樹	習志野市立第一中学校
レスリング	丹羽　久美	千葉市立土気中学校
トライアスロン	荒巻　泰藏	市川市立大野小学校
レスリング	坂上　楓舞希	松戸市立六実第三小学校
レスリング	田辺　優貴	松戸市立六実第二小学校
レスリング	守屋　凌太	鎌ヶ谷市立初富小学校
レスリング	西　彩乃	柏市立柏第五小学校
レスリング	関口　大輝	松戸市立相模台小学校
レスリング	村松　勇紀	柏市立柏第五小学校
レスリング	猪口　薫	鎌ヶ谷市立中部小学校
レスリング	桑川　直樹	流山市立東深井小学校
なぎなた	加藤　優河	松戸市立八ヶ崎小学校
カヌー	関口　智亮	松戸市立大橋小学校
カヌー		習志野市立東習志野小学校
		市原市立京葉小学校
		八街市立実住小学校
		船橋市立八木が谷小学校
		松戸市立常盤平第三小学校
		松戸市立北部小学校
		市川市立新浜小学校
		千葉市立幕張西小学校
		柏市立旭東小学校
		鎌ヶ谷市立中部小学校
		習志野市立東習志野小学校
		佐倉市立井野小学校
		香取市立小見川西小学校

スポーツ

個人

水泳	吉田　ケイワン	柏市立酒井根小学校
水泳	佐藤　あゆみ	柏市立酒井根中学校
水泳	梅林　太朗	松戸市立第四中学校
水泳	吉田　裕貴	野田市立第一中学校
水泳	矢後　公誠	柏市立柏第五中学校
水泳	鈴木　千加	千葉県立一宮商業高等学校
水泳	木村　夕貴	千葉県立館山高等学校
水泳	阿部　薫	習志野市立習志野高等学校
水泳	五十嵐　未帆	柏市立柏高等学校
水泳	大胡　龍之介	習志野市立谷津小学校
水泳	飯田　陽	松戸市立第一中学校
水泳	桑川　元樹	習志野市立第一中学校
水泳	丹羽　久美	千葉市立土気中学校
水泳	荒巻　泰藏	市川市立大野小学校
水泳	坂上　楓舞希	松戸市立六実第三小学校
水泳	田辺　優貴	松戸市立六実第二小学校
水泳	守屋　凌太	鎌ヶ谷市立初富小学校
水泳	西　彩乃	柏市立柏第五小学校
水泳	関口　大輝	松戸市立相模台小学校
水泳	村松　勇紀	柏市立柏第五小学校
水泳	猪口　薫	鎌ヶ谷市立中部小学校
水泳	桑川　直樹	流山市立東深井小学校
水泳	加藤　優河	松戸市立八ヶ崎小学校
水泳	関口　智亮	松戸市立大橋小学校
水泳		習志野市立東習志野小学校
水泳		市原市立京葉小学校
水泳		八街市立実住小学校
水泳		船橋市立八木が谷小学校
水泳		松戸市立常盤平第三小学校
水泳		松戸市立北部小学校
水泳		市川市立新浜小学校
水泳		千葉市立幕張西小学校
水泳		柏市立旭東小学校
水泳		鎌ヶ谷市立中部小学校
水泳		習志野市立東習志野小学校
水泳		佐倉市立井野小学校
水泳		香取市立小見川西小学校